

【授業科目名】 レクリエーション活動法		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 田川 雅規
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ・自分の思いを表現し、相手に向けて「伝える」から「伝わる」を実践できるようになる。 ・レクリエーションという言葉にとらわれない「関わり支援の方法」を身につける。 ・人の心を動かすためには何が必要かを理解し、企画・実践できるようになる。			
【授業の概要】 常に実習を想定しながら講義を進めるため、全講義が実践参加型の講義となる。 実習先や、実際の現場で何が求められ、対象となる人や場面を想像し、考え、グループで練る計画立案から準備・プログラムを実施するまでの力と、伝える力を養う。			
【授業計画】 第 1回：考える前にやってみるⅠ オリエンテーション・リラク্সワーク（講堂）（受講者に望むこと・受講上の注意点等含む） 第 2回：なってみる時間 制限された状態でのレクリエーション＋理論（教室） 第 3回：「座ったまま」の時間 「状態」の強みを活かすレクリエーション＋理論（教室） 第 4回：「相談」しながら楽しむ時間 課題解決型 謎解きレクリエーション＋理論（教室） 第 5回：「少しの時間」をつなぐ時間 「ま」の5分（待ち時間）を上手くつなぐ方法を考え、試す（講堂） 第 6回：つくる・つかう・なおす時間 道具をつくり、それを使って仲間になる＋理論（講堂） 第 7回：口ずさむ時間 レクリエーションに「歌」を融合させる＋理論（教室） 第 8回：テストⅠ 1回目から7回目までの内容を実技と筆記形式のテスト（講堂） 第 9回：考える前にやってみるⅡ リラクックス・リフレッシュ＋理論（講堂） 第10回：「伝える」時間 レクリエーションとコミュニケーションの 間にあるものを考える＋理論（教室） 第11回：「伝わる」時間 「伝える」から「伝わる」へと変換する＋理論（教室） 第12回：イメージを考える時間 「コミュニケーション」を形にする＋理論（教室） 第13回：得意を役割に換える時間 自分を捉え、相手を想像する＋理論（教室） 第14回：テストⅡ これまでの13回を通しての実技試験＋筆記試験（講堂） 第15回：コミュニケーションをデザインする時間 レクリエーションとコミュニケーションの違いを理解し実践する（講堂） まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 じょうぶな頭とかしこい体になるために・五味太郎・ブロンズ新社			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 ・実技・筆記テスト2回 : 60% ・提案回数、質問回数、発表回数等 : 40%			

【授業科目名】 生活文化		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 奥川 あかり
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活の経営、食生活、衣生活、住生活を理解し、実践に必要な知識を身につける ・ 社会の変化に対応するため、生活環境やライフスタイルの変化、社会的価値観を理解する ・ 持続可能な社会の構築を目標に、新たな情報に目を向け、課題を持つことができる 			
【授業の概要】			
<p>だれもがその人らしく健康的かつ文化的に、平和で幸福な生活を継続するため、家庭を中心とした人間生活の文化について考え、生活の基本的知識や人と物との相互作用を総合的に理解し、年齢、性別、出身地、宗教、信条、人種、国籍、価値観、働き方など、多様性を尊重できる共感的態度を養う。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1 回：オリエンテーション 受講上の留意点、安心・安全な暮らし</p> <p>第 2 回：家庭生活の営み（1） 家庭生活の理解、家庭生活と家族</p> <p>第 3 回：家庭生活の営み（2） 日本の家庭生活の変化① -様々な家族のあり方-</p> <p>第 4 回：家庭生活の営み（3） 日本の家庭生活の変化② -人の尊厳と自己肯定感-</p> <p>第 5 回：生活設計の考え方（1） 家計・情報の管理と危機管理 -SNS との付き合い方-</p> <p>第 6 回：生活設計の考え方（2） 家庭経済と消費生活 -NPO（非営利団体）とは-</p> <p>第 7 回：生活設計の考え方（3） 高齢者や障がい者の経済生活 -高齢者とともに生きる-</p> <p>第 8 回：地球生活の営み（1） 環境に配慮した生活の工夫、持続可能な開発 -環境宣言-</p> <p>第 9 回：地球生活の営み（2） 安心して快適な生活の場づくり -地球家族-</p> <p>第 10 回：食生活の営み（1） 食文化・食生活の変化、行事食 -和食の心得-</p> <p>第 11 回：食生活の営み（2） 栄養の理解、高齢者の身体機能と栄養 -洋食の心得-</p> <p>第 12 回：食生活の営み（3） 食品の購入と選択、衛生管理 -食中毒の予防-</p> <p>第 13 回：衣生活の営み（1） 被服生活と被服の管理 -ファストファッションの影-</p> <p>第 14 回：衣生活の営み（2） 衣類の衛生管理 -健康・快適に住もう-</p> <p>第 15 回：総括</p> <p>定期試験</p>			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
<p>最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ・中央法規出版・介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ(第3版)・中央法規出版・介護福祉士養成講座編集委員会</p>			
【参考書・参考資料等】			
講義中に適宜指導する			
【学生に対する評価】			
筆記試験60%、小テスト・提出物・発表等（40%）			

【授業科目名】 臨床心理学入門		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 木戸 里香
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 臨床心理学の基礎理論に触れながら、「自分」と「他者」との関係性を考える機会とし、自己理解をもとにした他者理解を目標とします。講義における心理的援助の体験を通して、介護福祉現場において臨床心理学的な人間理解を深められるようにします。			
【授業の概要】 臨床心理学の基礎理論、アセスメントの意義と心理検査、介入方法について学びます。 心理的援助の方法について掘り下げ、実際の介護福祉現場で必要とされる臨床心理学の技法の応用を学習します。臨床心理学という学問について学んだ上で、その後具体的に介護福祉現場での心理的援助を概観し、その実状と課題を考えます。			
【授業計画】 授業方法は、講義、ワーク、ディスカッション等、アクティブラーニングの視点を取り入れて学びます。 第 1回：臨床心理学 オリエンテーション（受講者に望むこと・受講上の注意点等） 第 2回：自己理解① 意識と無意識 第 3回：自己理解② パーソナリティ理論 第 4回：基礎理論① 精神分析 第 5回：基礎理論② クライアント中心療法 第 6回：基礎理論③ 認知行動療法 第 7回：心理アセスメント① 質問紙法 第 8回：心理アセスメント② 投影法 第 9回：心理的援助① カウンセリングと傾聴 第10回：心理的援助② 個別的なアプローチ 第11回：心理的援助③ 集団的なアプローチ 第12回：事例研究発表① 研究発表と各々の相互評価 第13回：事例研究発表② 研究発表と各々の相互評価 第14回：事例研究発表③ 研究発表と各々の相互評価 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 プリントを配布します。			
【参考書・参考資料等】 吉川 悟 編著 『対人援助における臨床心理学入門』（ミネルヴァ書房）			
【学生に対する評価】 定期試験 50%、事例研究発表 20%、授業中のワーク提出など 30% を総合して評価します。			

【授業科目名】 介護の基本Ⅱ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典 他																																								
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年通年	【必修・選択】 必修																																								
<p>【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス提供の場について種類や機能を説明できる ・介護実践におけるターミナルケアと多職種連携、地域連携の果たす役割を知る。 ・普通救命技能を身につける。 ・利用者及び介護に関わる人の健康管理について必要性・具体策を知る。 																																											
<p>【授業の概要】</p> <p>介護サービス提供の場について実際に管理・指導的立場で活躍している職員を講師に招いて、より実践的・専門的な立場の特性を具体的な事例を通して学ぶ。地域高齢者との文化交流を通して生活の理解を深める。多職種連携、地域連携を実例から学びケアマネジメント、介護サービスの特性を学ぶ。</p>																																											
<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション・入所施設における介護</td> <td>オリエンテーション、認知症の理解</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>障害者支援施設の特性</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>地域密着型施設</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>認知症の疾患と症状</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>特別養護老人ホーム・通所サービス</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：ケアマネジメントの実際</td> <td>ケアマネジメントの意味としくみ</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>救護施設・サービス付き高齢者住宅</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：認知症高齢者の生活理解</td> <td>認知症サポーター養成講座で学ぶ</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：介護サービス提供の場に特性</td> <td>社会福祉協議会の役割</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：介護実践における連携</td> <td>ターミナルケアの実際</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：介護福祉士のはたらく場</td> <td>有料老人ホーム</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：高齢者との文化交流</td> <td>高齢者ダンス教室：ダンス・ダンス</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：普通救命の知識・技術</td> <td>普通救命講習</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：感染管理</td> <td>感染管理のための方策</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：前期まとめ</td> <td>前期の振り返り、学習のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第 16 回：多職種連携</td> <td>介護福祉士と多職種連携</td> </tr> <tr> <td>第 17 回：地域連携</td> <td>介護福祉士と多職種連携</td> </tr> <tr> <td>第 18 回：専門職業人としての介護福祉士</td> <td>歴史的変遷と時代背景</td> </tr> <tr> <td>第 19 回：介護に関わる人の健康管理</td> <td>身体的・精神的健康</td> </tr> <tr> <td>第 20 回：安心して働ける環境</td> <td>介護職の働く環境とその調整</td> </tr> </table>				第 1 回：オリエンテーション・入所施設における介護	オリエンテーション、認知症の理解	第 2 回：介護サービス提供の場に特性	障害者支援施設の特性	第 3 回：介護サービス提供の場に特性	地域密着型施設	第 4 回：介護サービス提供の場に特性	認知症の疾患と症状	第 5 回：介護サービス提供の場に特性	特別養護老人ホーム・通所サービス	第 6 回：ケアマネジメントの実際	ケアマネジメントの意味としくみ	第 7 回：介護サービス提供の場に特性	救護施設・サービス付き高齢者住宅	第 8 回：認知症高齢者の生活理解	認知症サポーター養成講座で学ぶ	第 9 回：介護サービス提供の場に特性	社会福祉協議会の役割	第 10 回：介護実践における連携	ターミナルケアの実際	第 11 回：介護福祉士のはたらく場	有料老人ホーム	第 12 回：高齢者との文化交流	高齢者ダンス教室：ダンス・ダンス	第 13 回：普通救命の知識・技術	普通救命講習	第 14 回：感染管理	感染管理のための方策	第 15 回：前期まとめ	前期の振り返り、学習のまとめ	第 16 回：多職種連携	介護福祉士と多職種連携	第 17 回：地域連携	介護福祉士と多職種連携	第 18 回：専門職業人としての介護福祉士	歴史的変遷と時代背景	第 19 回：介護に関わる人の健康管理	身体的・精神的健康	第 20 回：安心して働ける環境	介護職の働く環境とその調整
第 1 回：オリエンテーション・入所施設における介護	オリエンテーション、認知症の理解																																										
第 2 回：介護サービス提供の場に特性	障害者支援施設の特性																																										
第 3 回：介護サービス提供の場に特性	地域密着型施設																																										
第 4 回：介護サービス提供の場に特性	認知症の疾患と症状																																										
第 5 回：介護サービス提供の場に特性	特別養護老人ホーム・通所サービス																																										
第 6 回：ケアマネジメントの実際	ケアマネジメントの意味としくみ																																										
第 7 回：介護サービス提供の場に特性	救護施設・サービス付き高齢者住宅																																										
第 8 回：認知症高齢者の生活理解	認知症サポーター養成講座で学ぶ																																										
第 9 回：介護サービス提供の場に特性	社会福祉協議会の役割																																										
第 10 回：介護実践における連携	ターミナルケアの実際																																										
第 11 回：介護福祉士のはたらく場	有料老人ホーム																																										
第 12 回：高齢者との文化交流	高齢者ダンス教室：ダンス・ダンス																																										
第 13 回：普通救命の知識・技術	普通救命講習																																										
第 14 回：感染管理	感染管理のための方策																																										
第 15 回：前期まとめ	前期の振り返り、学習のまとめ																																										
第 16 回：多職種連携	介護福祉士と多職種連携																																										
第 17 回：地域連携	介護福祉士と多職種連携																																										
第 18 回：専門職業人としての介護福祉士	歴史的変遷と時代背景																																										
第 19 回：介護に関わる人の健康管理	身体的・精神的健康																																										
第 20 回：安心して働ける環境	介護職の働く環境とその調整																																										

第21回：生活支援とQOL	化粧療法プログラム実践
第22回：介護と研究	介護職の研究活動
第23回：職能団体とは	介護における専門職能団体の活動
第24回：介護サービス特性	医療的ケアと介護サービス
第25回：事故防止	安全対策、自己防止策
第26回：高齢者の健康美学	ハンドケア、ヘアケア
第27回：高齢者の健康美学	リンパマッサージ
第28回：生活支援とQOL	ペコロスの母に会いに行く
第29回：生活支援とQOL	ペコロスの母に会いに行く
第30回：介護の基本Ⅱのまとめ	学習のまとめ
定期試験	
【テキスト名・著者名・出版社名】	
新介護福祉士養成講座3	介護の基本Ⅰ 第3版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
新介護福祉士養成講座4	介護の基本Ⅱ 第4版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
七訂 介護福祉士用語辞典	中央法規出版部編 中央法規
【参考書・参考資料等】	
適宜指示します。	
【学生に対する評価】	
定期試験50%、提出課題（レポート等）50%	

【授業科目名】 コミュニケーション技術B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 伊都 紀美子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 対人援助職として、専門性につながるコミュニケーション技術を習得する。			
【授業の概要】 介護における人間関係場面での自己と対人関係の相互作用を理解し、対人援助職が介護場面で求められるコミュニケーション技術について演習を交えながら学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：介護におけるコミュニケーション（オリエンテーション、コミュニケーション技術を学ぶ意義） 第 2回：利用者・家族とのコミュニケーション（利用者の意欲を引き出す方法） 第 3回：利用者・家族とのコミュニケーション（利用者と家族の意向を調整する技法①） 第 4回：利用者・家族とのコミュニケーション（利用者と家族の意向を調整する技法②） 第 5回：利用者の特性に応じたコミュニケーション（コミュニケーション障害の理解） 第 6回：利用者の特性に応じたコミュニケーション（コミュニケーション障害のある利用者への対応） 第 7回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（高次脳機能障害） 第 8回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（失語症） 第 9回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（構音障害） 第10回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（認知症・若年性認知症） 第11回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（視力障害・聴力障害） 第12回：利用者の特性に応じたコミュニケーション技術（知的障害・精神障害） 第13回：チームのコミュニケーション（チームのコミュニケーションの意義） 第14回：チームのコミュニケーション（会議） 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第3版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験60% 演習・発表20% レポート20%			

【授業科目名】 生活支援技術・応用		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 武内清・寺岡京子・山本貴啓 尾崎朋子・中嶋昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①様々な障がいに合わせて基礎介護技術を学び、なぜそれが必要なのかを考えられる。 ②全身性・視覚障がい者が安心・安全で外出支援できる基礎的な支援が行える。			
【授業の概要】 障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を通じて心理的な理解を深める。本人だけではなく、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。			
【授業計画】 第1回：講義 オリエンテーション・視覚障害者（児）福祉の制度とサービス 同行援護の制度と従業者の業務 第2回：講義 聴覚・言語障害に応じた介護 第3回：講義 重複障害に応じた介護 第4回：講義 障害者（児）に心理 第5回：講義 障害疾病の理解・情報支援と情報提供 第6回：演習 代筆代読の基礎知識。同行援護の基礎知識。校内歩行 第7回：演習 外出支援（駅周辺の歩行） 第8回：演習 外出支援（交通機関の利用） 第9回：演習 ロービジョン体験 第10回：講義 介護従業者の職業倫理 居宅介護概論・移動支援に係る制度とサービス 第11回：講義 障害者の心理 障害者福祉の制度とサービス 第12回：講義 車いす及び装具等の理解 コミュニケーションについて 事故防止に関する心がけと対策 第13回：演習 生活行為の介助 姿勢保持について 重度肢体不自由者（児）における障害の理解 第14回：講義 内部障害（心臓機能・腎臓機能・直腸機能障害） 第15回：演習 学外 移動支援の方法 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 ・最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版 ・最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 介護福祉士養成講座編集委員 中央法規出版 ・同行援護従業者養成研修テキスト 第3版 同行援護従業者養成研修テキスト編集委員 中央法規出版 ・ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 第2版 ガイドヘルパー技術研究会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 試験 60% 提出物等 40%			

【授業科目名】 生活支援技術・地域		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎 朋子・奥川 あかり 西尾 幸子・中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・被服生活の支援の意義と目的を理解し基本的な裁縫ができる。 ・高齢者、障がいのある人の食生活を理解し、配慮をした介護食が作成できる。 ・内部障害のある人の生活支援方法を説明できる。 ・居住環境整備の意義と目的が説明できる。 ・様々な障がいに合わせた生活支援方法が説明できる。 			
【授業の概要】 病気や障がいによっておこる生活上の困難や問題点を学び、介護のありかたを理解し、さまざまな障害に応じた生活支援技術を習得する。			
【授業計画】 第 1回：調理の基本、介護食について 栄養の基礎、食品の調理性と調理の基本 第 2回：高齢者・障がい者の食事1 食品・調理による配慮と工夫、普通食からの介護職への展開 1 第 3回：高齢者・障がい者の食事2 加工食品、常備食品の活用、普通食からの介護職への展開 2 第 4回：バランスのとれた食事 健康に過ごすための食事計画、楽しく食事をするための演出など 第 5回：知的障がい・発達障がいに応じた介護 知的障がいのある人と生活の理解、生活支援と環境整備、発達障がいのある人と生活の理解 第 6回：発達障がい・高次脳機能障がいに応じた介護 発達障がいのある人の生活支援と環境整備、高次脳機能障がいのある人と生活の理解 第 7回：高次脳機能障がい・精神障がいに応じた介護 高次脳機能障がいのある人の生活支援と環境整備、精神障がいのある人と生活の理解 第 8回：精神障がいに応じた介護・まとめ 発達障がいのある人の生活支援と環境整備、まとめ 第 9回：裁縫 被服管理（アイロンがけ・被服の補修）裁縫の基礎 第10回：裁縫 被服の機能と変化、レクリエーションやリハビリのための小物制作 1 第11回：裁縫 被服の素材・洗濯と保管、レクリエーションやリハビリのための小物制作 2 第12回：裁縫 被服の衛生保持と管理・工夫、レクリエーションやリハビリのための小物制作 3 第13回：内部障がい等に応じた介護 肝機能障がいのある人の理解、生活支援と環境整備 第14回：居住環境の整備1 住まいの役割と機能、生活空間、快適な室内環境 第15回：居住環境の整備2 まとめ 安全に暮らすための生活環境、高齢者・障がい者の住まい 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験 60% 小テスト・提出物 40%			

【授業科目名】 介護過程Ⅱ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎 朋子
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 介護過程の一連の流れを理解し、実施・評価を知識・技術を統合して実践的に展開することができる 2. 対象者の特性に応じた介護過程の展開を理解することができる 3. 介護過程の展開におけるチームアプローチの意義について理解することができる			
【授業の概要】 対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開を、事例や実習体験から学び、アセスメント力、計画立案力をこまじょうさせ、実施・評価まで専門的な知識・技術を統合し、適切な支援を提供出来る実践力を養うことを目的とする。また、介護過程の展開におけるチームアプローチの意義と他職種連携の実践について、事例や実習体験を通して知ること、介護のあり方を個別に合わせて考える			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション：介護過程Ⅰの範囲の確認と復習、受講者に望むこと・受講上の注意等 第 2回：介護過程の展開における課題と改善：実習Ⅰ－Ⅱの個別援助計画を振り返る（GW） 第 3回：介護過程の展開における課題と改善：実施状況・評価の記録から記述内容と方法を学ぶ1 第 4回：介護過程の展開における課題と改善：実施状況・評価の記録から記述内容と方法を学ぶ2 第 5回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開 アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例1 第 6回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開 アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例2 第 7回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開 アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例3 第 8回：対象者の特性に応じた介護過程の実践的展開 アセスメントの実際、情報収集の視点、生活機能からみた事例4 第 9回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響1 第10回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響2 第11回：介護過程の展開の実際：対象者の状態と生活に及ぼす影響3 第12回：対象者の生活と介護過程の展開：対象者の特性と生活（在宅生活、一人暮らしなど） 第13回：対象者の特性と生活（疾患、障害、環境による） 第14回：介護過程とチームアプローチ：チームアプローチの意義、介護福祉士の役割 第15回：まとめ：介護過程の展開における対象者の理解と重要事項の確認 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成校座9 介護過程 介護福祉士養成校座編集委員会編集 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）、課題提出、小テスト、事例の解説・発表（40％）を総合評価する。			

【授業科目名】 介護過程Ⅲ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 介護実習Ⅱを適切に振り返り、介護の課題を研究的視点で取り組むことができる。</p> <p>2. アセスメント対象者の生活課題に対し、適切な援助とは何かを根拠を持って考える事ができる。</p> <p>3. 振り返りに基づいて、事例報告として抄録を作成し、一連の学習結果を発表できる。</p>			
【授業の概要】			
<p>介護実習を通じて学んだ事例を元に、介護過程の展開を振り返り、利用者のその過程を通して1人の利用者に向き合い、利用者の立場にたって、援助について個人及びグループワークで深く考える事で、より適切な援助の内容・方法を導き出せる能力を向上させる。担当した利用者の個別援助計画について、介護事例報告として研究的視点で取り組み、事例報告に必要な基礎的能力を身につける。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1 回： 1 内容と進め方</p> <p>第 2 回： ・介護実習Ⅱ実践と振り返りを元に、個人の事例を研究的視点で取り組む。</p> <p>第 3 回： ・各自の事例研究は、指導教員の指導のもとに行う</p> <p>第 4 回： ・各自の事例研究は、指導教員と相談の上、計画的に進めること。</p> <p>第 5 回： ・研究成果は抄録にまとめる。</p> <p>第 6 回：</p> <p>第 7 回： 2 抄録の作成</p> <p>第 8 回： ・抄録の構成は、指導の様式を参考にする。</p> <p>第 9 回： ・抄録の書式はA4サイズを用い、パソコン入力でWordで仕上げる。</p> <p>第10回： ・書式の詳細は、各指導教員の指示に従い、指導の下に抄録を作成する。</p> <p>第11回：</p> <p>第12回： 3 事例報告の評価</p> <p>第13回： ・抄録の作成、提出</p> <p>第14回： ・事例報告の発表（口頭発表）</p> <p>第15回： ・事例報告の発表（パワーポイント作成）</p> <p>定期試験</p>			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
最新介護福祉士養成講座9 介護過程			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】			
抄録 50% 事例発表 20% パワーポイント 30%			

【授業科目名】 介護総合演習Ⅱ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 次の実習にむけた自己の課題を明確化できる。介護過程の授業と連動した事例検討及び介護計画案のための基本的な技術が習得できる。			
【授業の概要】 実習Ⅰ－1・2を通して学んだ様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱにむけて統合していくための準備を行う。 これまでの実習体験を包括的に考察し、体系的に理解する中で、自己の課題を明確化することの重要性を理解する。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 今後の予定、課題、実習Ⅱにむけて 第2回：実習Ⅰ－2の振り返りによって、各自が学んだ事柄を全体の学びとして深める① 利用者の全体像の振り返り① 第3回：実習Ⅰ－2の振り返りによって、各自が学んだ事柄を全体の学びとして深める② 利用者の全体像の振り返り② 第4回：実習Ⅰ－2の振り返りによって、各自が学んだ事柄を全体の学びとして深める③ 施設訪問 第5回：実習Ⅰ－2の振り返りによって、各自が学んだ事柄を全体の学びとして深める④ 利用者の全体像の振り返り③ 第6回：実習Ⅰ－2体験発表会にむけて 体験発表の準備① 第7回：実習Ⅰ－2体験発表会にむけて 体験発表の準備② 第8回：実習記録について① 第9回：実習記録について② 第10回：レクリエーションについて 第11回：実習Ⅰ－2体験発表会にむけて 直前準備 第12回：実習Ⅰ－2体験発表会にむけて 発表会 第13回：実習Ⅱにむけて① 実習目標・プロフィール・誓約書・実習定期等の書類作成 第14回：実習Ⅱにむけて② プログラムワークシートの作成 第15回：実習Ⅱにむけて③ 実習の心構え注意事項 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第3版 介護福祉士養成講座編集委員			
【参考書・参考資料等】 最新介護福祉士全書8 介護総合演習 メヂカルフレンド社			
【学生に対する評価】 定期試験 40% ・ 課題（レポート） 30% ・ 発表会 30%			

【授業科目名】 介護実習Ⅱ		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典
【授業の回数】	【時間数】 172.5時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. ICFに基づいた参加・活動の視点から、支援の内容及びその必要性について理解し、利用者を生活の主体者として捉えた介護過程を展開していくための個別援助計画の立案・実施・評価できる能力を養う。</p> <p>2. 学内で学んだ知識・技術を応用して、介護実践の為の基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じて適切な生活支援技術の活用ができる。</p> <p>3. 介護する上で必要な多職種の役割・責務について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>4. 対人援助の基盤となる人間理解・社会人基礎力を身につけ、専門職としての、価値観・倫理観を形成する基本となる人間の尊厳について理解を深める。</p>			
【授業の概要】			
<p>学内の講義、演習等で学習した各科目の知識、技術を統合して、施設利用者との人間的な関わりを深め、指導者からの具体的な指導を受けながら、利用者のニーズを理解、判断し、適切な介護が実践できるよう学習する場である。介護過程を通した個別ケアの為の計画の立案及びじっ施肥・評価・修正を展開できる実践力を習得する。</p>			
【授業計画】			
<p>23日間集中実習 + 帰校日(4日間)</p> <p>介護老人福祉施設、介護老人保健施設に分かれて実習を行う。</p> <p>個別援助計画の実施・評価までを課題とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の生活上のニーズを把握し、課題解決の為の情報を収集する ○利用者の自立を促すような生活課題の情報を分析し、個別援助計画を立案、実施する ○実施した計画に問題がないか評価し、個別援助計画の実践とあわせて、レクリエーションの計画・立案・実施・評価を行う ○多職種との連携を学ぶ ○夜勤帯を体験する ○実習終了後、事例報告として抄録を作成し、事例報告会で発表する。 			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】			
施設実習指導者の評価と担当指導教員の評価を統合して評価する。			

【授業科目名】 発達と老化の理解B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 高齢者に多い疾病を理解し、介護過程を学ぶ際の情報収集やアセスメントのエビデンスに役立てることが出来るようになる。			
【授業の概要】 成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。特に、高齢者に多い疾患や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響を理解する。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響① 第 2回：老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響② 第 3回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 第 4回：高齢者の症状・疾患の特徴 第 5回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点（痛み、めまい、食欲不振、しびれ、浮腫） 第 6回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点（咳・痰、息切れ、息苦しさ、不眠、便秘、誤嚥等） 第 7回：高齢者に多い病気とその留意点（三大生活習慣病と高血圧） 第 8回：高齢者に多い病気とその留意点（糖尿病、脂質異常症、痛風等） 第 9回：高齢者に多い病気とその留意点（骨・関節系の病気と歯・口腔の病気①） 第10回：高齢者に多い病気とその留意点（骨・関節系の病気と歯・口腔の病気②） 第11回：高齢者に多い病気とその留意点（目・耳の病気） 第12回：高齢者に多い病気とその留意点（皮膚の病気、呼吸の病気） 第13回：高齢者に多い病気とその留意点（腎・泌尿器の病気、消化器の病気） 第14回：高齢者に多い病気とその留意点（循環器系の病気、脳神経の病気、精神の病気） 第15回：高齢者に多い病気とその留意点（介護保険の特定疾病等） まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成講座12発達と老化の理解、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 高齢者のからだと病気、杉山孝博、中央法規			
【学生に対する評価】 定期試験（60％） 小テスト（30％） 提出物等（10％）で評価			

【授業科目名】 障害の理解B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 山本 貴啓
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 障害の原因となる疾患の種類と原因を説明できる。 疾患の特徴から生活機能障害を考える、介護過程に反映できる。 障害を持つ人の家族の支援、家族の介護力の評価を考える事が出来る。			
【授業の概要】 障害の理解Aで学んだことを基盤にし、様々な障害をもって生活している対象者の状態を介護福祉士として正しく理解して支援できる事を目的とする。 よりよい介護過程、介護介入となるような知識を得ることを目的とする。			
【授業計画】 第 1回：障害の理解A 振り返り 第 2回：脳血管疾患1 第 3回：脳血管障害2 症状から生活機能を考える 第 4回：脳血管障害3 リハビリテーション 第 5回：呼吸機能障害 第 6回：循環機能障害 第 7回：難病 第 8回：視覚障害 第 9回：聴覚障害 第10回：精神障害1 第11回：精神障害2 就労移行支援等、社会資源を含めたサポート体制 第12回：発達障害 第13回：知的障害 第14回：家族への支援 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 障害の理解・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版（1年次に使用したもの）			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（70%）講義内で課すレポート（30%）			

【授業科目名】 こころとからだのしくみⅡ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 心身の機能低下が「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「排せつ」に及ぼす影響について学習する。 2. 体に及ぼす影響と生体動作の変化、対応方法等について学ぶ。			
【授業の概要】 「こころとからだのしくみⅠ」で学修した人体の構造や機能を活かし、心身の機能低下が生活に及ぼす影響を理解する。また、変化に対しての気づきや対応方法について学ぶ。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション なぜ身じたくを整えるのか 第2回：身じたくに関連したしくみ（心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響） 第3回：身じたくに関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第4回：移動に関連したしくみ（移動のしくみ） 第5回：移動に関連したしくみ（心身の機能低下が移動に及ぼす影響） 第6回：移動に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第7回：食事に関連したしくみ（食事のしくみ） 第8回：食事に関連したしくみ（心身の機能低下が食事に及ぼす影響） 第9回：食事に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第10回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（入浴・清潔保持のしくみ） 第11回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響） 第12回：入浴・清潔保持に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第13回：排泄に関連したしくみ（排泄のしくみ） 第14回：排泄に関連したしくみ（心身の機能低下が排泄に及ぼす影響） 第15回：排泄に関連したしくみ（変化の気づきと対応） まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社			
【参考書・参考資料等】 随時配布			
【学生に対する評価】 定期試験（60％）、小テスト及び提出物等（40％）で評価			

【授業科目名】 こころとからだのしくみⅢ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 2年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①睡眠の仕組みを理解し、質の良い睡眠をとるための支援について学ぶ。 ②薬の知識について学ぶ。 ③「死」を理解し、終末期から「死」までの変化と特徴を理解する。 ④終末期ケアにおける医療職との連携を学ぶ。			
【授業の概要】 「こころとからだのしくみⅠ」「こころとからだのしくみⅡ」で学修したことを活かし、心身の機能低下が生活に及ぼす「睡眠」への影響を理解する。また、変化に対しての気づきや対応方法について学ぶ。また、誰もが避けられない「死」について介護に携わる専門職として、利用者とその家族、多職種及びチームメンバーと関わり方について学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション 第 2回：身じたく、移動、入浴、食事、排泄等の変化への気づきと支援について① 第 3回：身じたく、移動、入浴、食事、排泄等の変化への気づきと支援について② 第 4回：睡眠に関連したしくみ（睡眠のしくみ） 第 5回：睡眠に関連したしくみ（心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響） 第 6回：睡眠に関連したしくみ（変化の気づきと対応） 第 7回：薬の知識：薬の種類と正しい使い方① 第 8回：薬の知識：薬の種類と正しい使い方② 第 9回：死にゆく人に関連したしくみ（「死」を理解する） 第10回：死にゆく人に関連したしくみ（終末期から「死」までの変化と特徴） 第11回：死にゆく人に関連したしくみ（「死」に対する心の理解）DVD視聴 第12回：死にゆく人に関連したしくみ（医療関係者との連携）DVD視聴 第13回：死にゆく人に関連したしくみ（死生観の発表） 第14回：死にゆく人に関連したしくみ（死生観の発表） 第15回：死にゆく人に関連したしくみ（まとめ） 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社			
【参考書・参考資料等】 死ぬ瞬間 E・キューブラー・ロス、読売新聞社 改訂版現場で役立つ介護職のための薬の知識、尾崎秀子他、介護労働安定センター 高齢者の睡眠とその障害、公益財団法人長寿科学振興財団			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）、小テスト及び提出物等（40%）			

【授業科目名】 医療的ケア B		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 宮田 京子
【授業の回数】 18回	【時間数】 25時間	【開講学年・時期】 2年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①たんの吸引や経管栄養法の実施前から終了までの利用者の観察ができ、急変時の対応方法が理解できる。 ②介護福祉士の免許の範囲と免許外の行為を理解する。 ③感染予防・安全管理体制等について基礎的知識を身に付ける。			
【授業の概要】 安全に確実なたんの吸引や経管栄養法を実施するための基礎的知識、技術を習得する。			
【授業計画】 第 1 回：たんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ 第 2 回：吸引の技術と留意点（吸引前の観察・利用者の準備） 第 3 回：吸引の技術と留意点（実施手順と留意点・吸引実施に伴う利用者の身体変化） 第 4 回：吸引の技術と留意点（医師・看護職への報告、片づけ方法） 第 5 回：たんの吸引に伴うケア 第 6 回：消化器系のしくみと働き 第 7 回：消化・吸収とよくある消化器の症状 第 8 回：経管栄養法のしくみ 第 9 回：子どもの経管栄養 第10回：経管栄養に関する感染予防と利用者・家族に対する対応 第11回：経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 第12回：経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持 第13回：経管栄養の技術と留意点（準備・実施手順） 第14回：経管栄養の技術と留意点（医療職への報告） 第15回：経管栄養に必要なケア（消化機能を促進するケア、体位を整えるケア） 第16回：経管栄養に必要なケア（口腔、鼻、胃ろう部のケア） 第17回：医療職への報告 第18回：記録の意義・内容と書き方 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト・一般社団法人全国訪問看護事業協会中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（50%）、提出物、小テスト等（50%）で評価			

【授業科目名】 医療的ケア演習		【授業の種類】 演習	【担当教員名】 早川京子・宮田京子
【授業の回数】 30回	【時間数】 120時間	【開講学年・時期】 2年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 口腔・鼻腔吸引、気管カニューレ内吸引、胃瘻、経鼻経管栄養をシュミレーターを用いて効果的に演習ができ、一人で安全に確実に実施できる。			
【授業の概要】 医療的ケアとして、介護福祉士が行う喀痰吸引と経管栄養についての実技を安全に実施できるように演習を実施した後、技術テストを受けることで、確実な技術を習得する。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 口腔吸引演習 第2回：口腔吸引演習 第3回：口腔吸引技術評価① 第4回：口腔吸引技術評価② 第5回：口腔吸引技術評価③ 第6回：鼻腔吸引演習 第7回：鼻腔吸引演習 第8回：鼻腔吸引技術評価① 第9回：鼻腔吸引技術評価② 第10回：鼻腔吸引技術評価③ 第11回：気管カニューレ内吸引演習 第12回：気管カニューレ内吸引演習 第13回：気管カニューレ内吸引技術評価① 第14回：気管カニューレ内吸引技術評価② 第15回：気管カニューレ内吸引技術評価③ 第16回：胃瘻の演習 第17回：胃瘻の演習 第18回：胃瘻の技術評価① 第19回：胃瘻の技術評価② 第20回：胃瘻の技術評価③ 第21回：経鼻経管栄養の演習 第22回：経鼻経管栄養の演習 第23回：経鼻経管栄養の技術評価①			

第24回：経鼻経管栄養の技術評価②

第25回：経鼻経管栄養の技術評価③

第26回：事例問題

第27回：事例問題

第28回：事例問題

第29回：事例問題

第30回：事例問題 まとめ

【テキスト名・著者名・出版社名】

改訂介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト、全国訪問看護事業協会、中央法規

【参考書・参考資料等】

随時配布

【学生に対する評価】

口腔吸引、鼻腔吸引、気管カニューレ内吸引、胃瘻、経鼻経管栄養の技術テスト（75%）

レポート及び学習状況（25%）

【授業科目名】 人間の理解A		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中島 芳子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ・自己の生活が自己の主體的な意思により営まれていることを理解し、人間が個人として尊重されていることを学ぶ。 ・実践において、一人の人間としての利用者の権利と介護における自立支援のあり方を意識すること。			
【授業の概要】 対人援助職は、人間関係と信頼関係のうえに成り立つことを理解するために「人間を理解すること」「人間の尊重」「自立の意義」「自立と生活」「人権」といった、一人一人が持つ人間の価値観について認識し、介護福祉士としての人間理解のあり方と係わり方の基本を学ぶ。			
【授業計画】 第1回：「生きる」とは、人間が社会で生きていくということと、「福祉」とは何かを考える 第2回：人間の尊厳の意義、自立と自律(他者と自己の相違)を考える 第3回：人間の尊厳の意義、生活を支援する観点から自立と自律について考える 第4回：尊厳と自立をめぐる歴史としくみから、「人権」、そして「尊厳と自立の思想」について学ぶ 第5回：「人権」、「尊厳と自立」をめぐる歴史的経緯をグループワークを通して考える 第6回：「人権」、そして「尊厳と自立」に関する諸規定、人々が求める生活の幸せについて考える 第7回：施設実習を通して、利用者にとっての尊厳とは何か（グループディスカッション） 第8回：生活を通して人間の尊厳と自立を考える 第9回：事例から「生きる勇気の回復」、そして「より良き人生をおくるため」に、グループワークを通して考える 第10回：介護における権利擁護と人権尊重について考える 第11回：介護における利用者の自立とは、また介護者の支援のあり方を学ぶ 第12回：介護における利用者の尊厳の保持を、事例を通して考える 第13回：介護における利用者の尊厳の保持と自立支援を、自らの実習を通して考える(グループディスカッション) 第14回：介護における自立支援と介護福祉士の役割を考える 第15回：前期の復習(プレテスト形式) 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 最新版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 グループワーク等の発表内容：20%、 平常テスト：20%、 定期試験：60%			

【授業科目名】 社会と制度の理解A		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中島 芳子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 生活の基礎である個人、家族、地域社会、ライフスタイルの変化等について身近な生活を通して理解し、個人の責任において「生活する」ということを自覚する。 2. 社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ。			
【授業の概要】 個人の暮らしと生活のあり方を地域社会、社会福祉との関連で捉え、地域福祉、社会福祉、社会保障制度が個人の生活にどのように関係し、私たちの生活が成り立っているのかを理解する（自助、互助、共助、公助の観点から）。社会福祉、社会保障の役割や意義、理念と範囲、さらに制度全体の仕組みと今後の課題について理解する。			
【授業計画】 第 1回：社会と生活のしくみ；生活とは（人と生活） 第 2回：社会と生活のしくみ；生活の基本機能（生活の構成要素） 第 3回：社会と生活のしくみ；ライフスタイルの変化（少子化と高齢化、労働環境と家庭等）：グループワーク 第 4回：社会と生活のしくみ；家族の機能と役割（家族構造と形態） 第 5回：社会と生活のしくみ；社会、組織の機能と役割（人と社会、社会と組織） 第 6回：社会と生活のしくみ；地域の機能と役割（地域社会と個人、地域社会との関わり）：グループワーク 第 7回：社会と生活のしくみ；社会構造の変容（変貌する地域社会と個人） 第 8回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策；地域福祉の発展（地域社会の歴史的展開） 第 9回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策；地域共生社会（地域共生社会とは）：グループワーク 第 10回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策；地域包括ケア（地域包括ケアの考え方） 第 11回：社会保障制度；社会保障の基本的な考え方（社会保障の役割と意義、目的と機能等） 第 12回：社会保障制度；日本の社会保障制度の発達（社会保障の歴史を学ぶ、日本国憲法における社会保障等） 第 13回：社会保障制度；日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解（社会保障を支えるもの、社会保障のしくみ等） 第 14回：社会保障制度；現代社会における社会保障制度（生活を支える諸制度のあらまし等） 第 15回：前期の復習（プレテスト形式） 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 最新版・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 2019年版社会福祉小六法・ミネルヴァ書房			
【学生に対する評価】 グループワーク等の発表内容：20% 平常テスト：20% 定期試験：60%			

【授業科目名】 社会と制度の理解B		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 中島 芳子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<p>1. 介護保険法、障害者総合支援法、その他関連する法制度・施策の基本的な考え方を理解し、地域包括ケアシステムを念頭に、これからの介護ニーズに対応できる実践的知識を理解する。</p> <p>2. 専門職としての役割や必要な職業倫理を理解し、実践の場で適切な支援ができるように理解する。</p>			
【授業の概要】			
<p>介護福祉士に関する社会保障制度の中の介護保険制度、障害者総合支援制度についての基本理念を理解する。さらに介護実践に必要な具体的な社会福祉サービスの基礎的知識を習得する。また福祉サービスを提供するに当たり必要となる利用者の権利を擁護するための諸制度を学び、それをどのように活用するのか等、介護を实践するうえでの基本的な制度の仕組みや運用について理解する。</p>			
【授業計画】			
第 1 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；高齢者保健福祉の動向			
第 2 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；高齢者保健福祉に関連する法体系；介護保険制度の創設の背景			
第 3 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；介護保険制度のしくみと基礎知識			
第 4 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；介護保険給付の種類と内容 (介護保険給付の種類を各自で調べる：課題)			
第 5 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；介護保険制度に関わる組織とその役割			
第 6 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；介護保険制度における専門職の役割、介護予防の概念			
第 7 回：介護保険給付の種類と内容（課題）の発表			
第 8 回：高齢者保健福祉と介護保険制度；介護保険法改正の流れと介護保険制度の今後			
第 9 回：障害者保健福祉と障害者総合支援制度；障害者保健福祉の動向、障害者の概念			
第 10 回：障害者保健福祉と障害者総合支援制度；障害者保健福祉に関連する法体系、障害者総合支援制度の目的			
第 11 回：障害者保健福祉と障害者総合支援制度；障害者総合支援制度、障害者総合支援法のしくみ			
第 12 回：障害者保健福祉と障害者総合支援制度；障害者総合支援制度に関わる組織とその役割、障害者施策のゆくえ			
第 13 回：介護実践関連する諸制度；個人の権利を守る制度、施策、保健医療に関する制度・施策			
第 14 回：介護実践関連する諸制度；貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策、地域生活を支援する制度・施策			
第 15 回：後期の復習（プレテスト形式）			
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 最新版 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
2019年版 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房			
【学生に対する評価】			
課題の提出：20% 平常テスト：20% 定期試験：60%			

【授業科目名】 表現演習		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 寺岡京子・福田真梨奈
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 寺岡：聴覚障害者の言葉「手話」の基礎を学び、コミュニケーションの方法を知り、簡単な自己紹介が手話でできるようにする。 福田：童謡から歌謡曲まで様々なジャンルの曲が歌えること。より積極的な表現を通して、コミュニケーション能力を身につける。			
【授業の概要】 寺岡：「手話」という聴覚障害者の言語を学び、聴覚障害者の理解を深め、コミュニケーションの手段を学びます。 福田：様々なジャンルの歌唱に取り組む。・歌詞の意味をよく理解し、情感溢れる表現を楽しむ。ハンズクラップや手話により、体全体で音楽を感じることを学ぶ。			
【授業計画】			
第1回：自己紹介	オリエンテーション、身振り、手振りを交えて表現する	}	寺岡京子
第2回：自己紹介	名前の表現を理解する 指文字を含めて学ぶ		
第3回：自己紹介	名前の表現を理解する		
第4回：自己紹介	趣味を表現する		
第5回：自己紹介	家族の表現を学ぶ		
第6回：自己紹介	誕生日の表現を学ぶ		
第7回：自己紹介	歌を手話で表現する		
第8回：自己紹介	自己紹介の総まとめ		
第9回：オリエンテーション	受講者に望むこと、受講上の注意点等		
第10回：入門	音楽の歴史を知る、音楽を表現するのに必要な知識を学ぶ		
第11回：歌唱	童謡、春の歌、歌詞の読解		
第12回：歌唱	昭和歌謡、ハンズクラップ、歌詞の読解		
第13回：歌唱	英語の歌、ハンズクラップ		
第14回：歌唱	合唱、歌詞の読解		
第15回：歌唱	J-POP、ハンズクラップ、パーカッション		
定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 各回プリントを配布します。			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 寺岡：授業では積極的に前に出て表現してもらいます。授業中に行う発表内容、小テスト等で総合的に評価します。 福田：実技・課題 50%、授業での発言・発表 50%で評価します。			

【授業科目名】 介護の基本 I		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典 他
【授業の回数】 30回	【時間数】 120時間	【開講学年・時期】 1年 通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を支える介護、自立に向けた介護について説明ができる。 ・ 介護を必要とする人と求められる生活支援技術の必要性が理解できる。 ・ 生活障害と福祉用具について種類や使用例について説明ができる。 ・ 感染管理、リスクマネジメントについて理解できる。 			
【授業の概要】 領域「介護」の基盤となる科目で、「その人らしい生活を支援する専門職」として、基本的な考え方及び姿勢について学ぶ。前期は郊外演習・地域交流を通して、後期は現場で活躍している専門職者から介護福祉の最新情報や実践的な事例を元に幅広い視野で学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・生活支援としての介護 生活支援としての介護 第 2回：私たちの生活の理解 生活とは、その人らしさ 第 3回：介護とは 介護の成り立ち、自立 第 4回：介護のはたらきと基本的視点 尊厳、QOL、ノーマライゼーション 第 5回：生活障害の理解 生活ニーズとは 第 6回：自立に向けた介護 介護職の役割 第 7回：暮らしと介護 様々な生活支援とその意義 第 8回：その人らしさ理解 地域で暮らす高齢者 第 9回：高齢者と社会 和楽園見学、振り返り 第10回：地域の社会資源探索 地域福祉マップOR 事前準備 第11回：地域の社会資源探索 尼崎市の福祉の関する社会資源の探索（地域包括） 第12回：地域の社会資源探索 尼崎市の福祉の関する社会資源の探索（地域包括のまとめ） 第13回：地域の社会資源探索 尼崎市の福祉マップとフィールドワークレポート（テーマ別） 第14回：フィールドワーク発表会準備 発表原稿まとめ、発表会準備 第15回：フィールドワーク発表会 前期まとめ 発表会、前期まとめ 第16回：生活障害とケア 生活障害と認知症ケア 第17回：ICFの捉え方 ICFとアセスメント 第18回：リハビリテーション リハビリテーションの考え方 第19回：生活環境 生活環境の捉え方 第20回：リハビリテーションと介護 介護職が行うリハビリテーション			

第21回：口腔ケアについて	歯磨き介助の方法、義歯の装着・脱着・管理方法 口腔内の清潔保持について
第22回：生活障害と福祉用具	義肢・装具、靴、インソール
第23回：生活障害の理解	生活ニーズと生活障害
第24回：生活支援と身体介護	オムツフィッターによる紙おむつの種類と機能性
第25回：排泄ケアの理解	介護職が行う排泄ケアのまとめ
第26回：介護福祉士とは	介護福祉士の機能と役割
第27回：身体介護と生活支援技術	身体介護と家事援助
第28回：高齢者虐待	高齢者虐待防止法、成年後見制度
第29回：リスクマネジメント	リスクマネジメントとは
第30回：相談援助・後期まとめ	相談援助・介護の基本Ⅰのまとめ

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

- ・最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規
- ・七訂 介護福祉士用語辞典 中央法規出版部編 中央法規

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

定期試験50%、提出課題（ワークシート、小レポート等）50%

【授業科目名】 コミュニケーション技術A		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中嶋 昭典
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ・介護職としてのコミュニケーションに必要な基礎的な知識・技術を習得する ・利用者・家族との関係づくりとコミュニケーションの理解をする			
【授業の概要】 介護におけるコミュニケーションの基本を理解し、様々な場面でのコミュニケーションのあり方および具体的な技術について講義・演習を通じて体得し、実践に必要なコミュニケーション能力を身につける。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション・介護におけるコミュニケーション① 介護におけるコミュニケーションとは (演習) コミュニケーション上手になるために 第 2回：介護におけるコミュニケーション② 介護におけるコミュニケーションの対象 第 3回：介護におけるコミュニケーション③ 援助関係とコミュニケーション (演習) へになる 第 4回：コミュニケーション基本技術① 態度に関する基本技術 (演習) 介護施設の対象者を想定したコミュニケーション 第 5回：コミュニケーション基本技術② 言語的・非言語的コミュニケーションの技術 (演習) メッセージを共有する意欲を高める 第 6回：コミュニケーション基本技術③ 目的別のコミュニケーション技術 第 7回：コミュニケーション基本技術④ 集団を対象とするコミュニケーション技術 (演習) 言語・非言語でメッセージを共有する 第 8回：家族とのコミュニケーション① 小テスト1 家族との関係づくり 第 9回：家族とのコミュニケーション② 助言・指導・調整 (演習) 利用者満足を高めるメッセージを学ぶ 第10回：家族とのコミュニケーション③ 家族の介護ストレスへの対応 第11回：介護におけるチームのコミュニケーション① チームのコミュニケーションとは (演習) 聞き方を身につける・メッセージを受け取る能力を高める 第12回：介護におけるチームのコミュニケーション② 報告・連絡・相談 第13回：介護におけるチームのコミュニケーション③ 記録の技術 (演習) 第14回：介護におけるチームのコミュニケーション④ 会議・議事進行。事例検討に関する技術 第15回：介護におけるチームのコミュニケーション⑤ 情報管理のための技術 小テスト2 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 介護福祉士養成テキスト2 人間関係とコミュニケーション 諏訪 茂樹 建帛社コミュニケーション基本テキスト 五十嵐 健 日本能率協会マネジメント社			
【学生に対する評価】 筆記試験 60% 小テスト 20% 課題提出物 20%			

【授業科目名】 生活支援技術・基本		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 中嶋 昭典
【授業の回数】 60回	【時間数】 180時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 睡眠・移乗・着脱・食事・身だしなみ・入浴・排泄の介護において、ICFの視点からアセスメントを行い自立に向けた支援を考えを行い、利用者の状況に応じて、安全・安楽に配慮した介護の基本技術を習得する。			
【授業の概要】 ICFの視点に基づき利用者の生活上のニーズを把握し、自立（自律）に向けたさまざまな介護技術の根拠を理解し知識を身につけ、具体化していく方法を理解し、習得する。			
【授業計画】 第 1回：オリエンテーション、生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方、生活支援におけるICFの視点 第 2回：生活支援技術・基本を学ぶ目的、演習の重要性とは 第 3回：演習 環境整備 ベッドメイキング 第 4回：休息・睡眠の介護 自立した休息・睡眠とは、自立に向けた休息・睡眠とは 第 5回：演習 環境整備・移動の介護 ベッドメイキング・歩行介助 第 6回：演習 移動の介護 車いす操作 第 7回：演習 起居の介護 上方移動・水平移動・仰臥位から側臥位 第 8回：休息・睡眠の介護、休息・睡眠の介護における多職種の役割と協働 第 9回：演習 起居の介護 起き上がり・立ち上がり 第10回：自立に向けた移動・移乗の介護 自立した移動・移乗とは、自立に向けた移動・移乗の介護 第11回：演習 起居の介護 復習 第12回：自立に向けた移動・移乗の介護 移動の介護における多職種の役割と協働 第13回：演習 移乗の介護 ベッドから車いす・車いすからベッド（一部介助） 第14回：生活支援の理解 生活支援とチームアプローチ 第15回：演習 移乗の介護 二人介助 ベッドから車いす・車いすからベッド 復習 第16回：アセスメントについて 第17回：演習 着脱の介護 座位時の着脱の介護 第18回：アセスメントについて 小テスト 第19回：自立に向けた身じたくの介護 自立した身じたくとは、自立に向けた身じたくの介護 第20回：演習 排泄の介護 ポータブルトイレ（一部介助） 第21回：自立に向けた身じたくの介護 身じたくの介護における多職種の役割と協働 第22回：演習 食事の介護 ベッド上・車いす上・視覚障害の食事の介護 第23回：自立に向けた排泄の介護 自立した排泄とは 自立に向けた排泄とは 第24回：演習 前期復習 第25回：自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種の役割と協働 第26回：演習 前期復習 第27回：自立に向けた食事の介護 自立した食事とは 自立に向けた食事とは 第28回：演習 実技試験 第29回：自立に向けた食事の介護 第30回：小テスト 前期のまとめ			

第31回：演習 入浴の介護 機械浴・普通浴
 第32回：自立に向けた入浴の介護
 第33回：演習 入浴の介護
 第34回：自立に向けた入浴の介護
 第35回：演習 入浴の介護
 第36回：自立に向けた入浴の介護
 第37回：演習 入浴の介護 清潔保持の介護・移乗の介護
 第38回：自立に向けた入浴の介護
 第39回：自立に向けた清潔保持の介護
 第40回：演習 入浴の介護・清潔保持の介護・移乗の介護
 第41回：自立に向けた清潔保持の介護
 第42回：演習 環境整備 ベッドメイキング（一人）
 第43回：演習 着脱の介護 臥床状態での介護
 第44回：演習 着脱の介護・排泄の介護 臥床状態での介護・差込便器、尿器
 第45回：自立に向けた清潔保持の介護
 第46回：演習 排泄の介護
 第47回：介護職にできる「医行為でない行為」
 第48回：褥瘡予防
 第49回：演習 排泄の介護
 第50回：人生の最終段階における介護
 第51回：応急手当の知識と技術
 第52回：演習 排泄の介護 復習
 第53回：応急手当の知識と技術
 第54回：演習 移乗の介護 福祉用具を使用した以上の介護
 第55回：福祉用具の意義
 第56回：演習 復習
 第57回：演習 復習
 第58回：災害時における介護と実際
 第59回：演習 実技試験
 第60回：小テスト まとめ
 定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

- ・最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
- ・最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
- ・新セルフチェック基礎介護技術 第2版 古谷野亘 滝波順子 中央法規出版

【参考書・参考資料等】

写真とイラストですぐわかる！安全・やさしい介護術 橋本 正明監修 株式会社 西東社
 介助が困難な人への介護技術 滝波順子 田中義行 中央法規出版
 介護職にできる「医行為でない行為」ビジュアルガイド 渡辺裕美 メディカ出版

【学生に対する評価】

筆記試験 30% 実技試験 40% 小テスト 10% 課題提出物 20%

【授業科目名】 介護過程 I		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎 朋子
【授業の回数】 15回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報収集の方法・項目を理解し、必要な情報を収集することができる。 2 収集した情報の意味づけ・解釈・関連付けを知識と統合して利用者の状況を明確化できる。 3 利用者の状況について現在の生活課題を抽出できる。 4 生活課題を解決するための個別援助計画を立案することができる。 			
【授業の概要】			
<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、個別援助計画の立案方法について理解する。利用者理解を図りながら、必要な情報収集とその分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程について介護を学ぶ。事例演習を通して、ICFの概念を取り入れ、利用者の生活課題を明確化するアセスメント、自立支援に添った個別援助計画の立案までを学ぶ。</p>			
【授業計画】			
<p>第 1 回：オリエンテーション、介護過程とは 第 2 回：生活支援の考え方と介護過程の必要性 第 3 回：介護過程の全体像、介護過程のプロセスの理解 第 4 回：介護過程の展開の理解 第 5 回：アセスメントの構成－情報収集・情報の解釈・関連づけ・統合化 第 6 回：アセスメント－情報収集から生活像の組み立て（全体像の理解と3つの観点） 第 7 回：アセスメント－Bさんのアセスメント表から学ぶ 第 8 回：アセスメント－ICFモデルを活用した情報収集の理解 第 9 回：アセスメント－3つの視点と情報の解釈・関連づけ・統合化 第 10 回：アセスメント記録の記入方法 第 11 回：アセスメント－演習：3つの視点と情報の解釈 第 12 回：アセスメント－情報の解釈・関連付け・統合化による生活課題の明確化 第 13 回：生活課題の明確化－3つの視点による情報の解釈 第 14 回：生活課題と介護計画 第 15 回：介護計画の概要</p> <p>定期試験</p>			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
最新介護福祉士養成講座9 介護過程 介護福祉士養成講座編集委員介編集 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】			
定期試験60%、演習課題・小テスト40%を総合評価する。			

【授業科目名】 介護総合演習 I		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典
【授業の回数】 30回	【時間数】 90時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 本校の実習内容を理解し、各実習プログラムに沿った実習目標を立て、主体的に活動できる。 2 実習記録の意義を理解し、活動の結果・評価・考察まで適切に記録することができる。 3 実習の事前・事後学習ができ、自己課題を明確にして計画的に実習に取り組む事ができる 			
【授業の概要】			
<p>この科目は、学内で学ぶ知識・技術と学外の実習の架け橋となる役割と、実習に臨むにあたって、その意義を十分に理解し、目標を達成できるよう準備を行うための学習としての役割がある。介護福祉士としての実践能力を獲得する機会である実習に、主体的に取り組み、有意義な体験として専門科目との統合ができることを目的とする。</p>			
【授業計画】			
第 1 回：オリエンテーション 実習総論			
第 2 回：実習先の概要理解 実習のてびき、施設の種別学習 (DVD)			
第 3 回：事前学習 施設理解、提出書類の理解			
第 4 回：事前学習 事前訪問準備、提出書類の作成			
第 5 回：実習記録の理解 実習記録の意義、実習記録の書き方 事前訪問実施			
第 6 回：実習体験の振り返り コミュニケーションのはかり方			
第 7 回：実習体験の振り返り 利用者の生活の理解			
第 8 回：実習体験の振り返り 自己の課題の明確化			
第 9 回：中間カンファレンス 担当教員別中間までの振り返り 後半に向けての指導			
第 10 回：利用者の全体像の理解			
第 11 回：最終カンファレンスの準備訪問介護の理解			
第 12 回：実習 I - I 前期の振り返り			
第 13 回：実習 I - 1 後期のオリエンテーション			
第 14 回：実習 I - 1 後期実習先の概要理解			
第 15 回：訪問介護の学内事前演習			
第 16 回：訪問介護実習報告会 グループワーク			
第 17 回：実習事前訪問報告			
第 18 回：実習記録の書き方チェック、見守りの本質			
第 19 回：前半実習の振り返り・報告 自己の課題の明確化			
第 20 回：実習 I - 1 後期・前半の報告			

第21回：実習の場の理解：実習Ⅰ－2 障害者支援施設
第22回：実習の場の理解：知的障害
第23回：実習の場の理解：医療型障害児・者入所施設
第24回：実習Ⅰ－1後期2施設目 中間カンファレンス
第25回：実習Ⅰ－2オリエンテーション 実習プログラムの理解
第26回：実習Ⅰ－2事前準備 実習目標、提出書類作成
第27回：実習目標指導 個別目標指導
第28回：実習プログラムワークシートの作成
第29回：実習Ⅰ－2事前訪問準備
第30回：実習Ⅰ－2の課題と重要事項の確認
定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

【参考書・参考資料等】

【学生に対する評価】

課題提出物（実習記録等）（50%）・小テスト（50%）

【授業科目名】 1 介護実習 I - 1		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典
【授業の回数】	【時間数】 142.5時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 福祉施設の法的な制度、利用要件、施設の基本理念、事業内容について理解する。 2. 施設の提供している介護サービスと介護職員の役割及び基本的ケアを理解する。 3. 利用者の語りに耳を傾ける事を通じて受容と共感を理解する。			
【授業の概要】 利用者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場に於いて個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関連機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。			
【授業計画】 毎週木曜日8日間、訪問介護1日 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、のいずれかで8日間（デイサービス、または、デイケア実習1日含む）、訪問介護実習1日 実習終了後、振り返りレポートを提出する。			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成講座10 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 施設実習指導者の評価と担当指導教員の評価を総合して行う。			

【授業科目名】 介護実習 I - 2		【授業の種類】 実習	【担当教員名】 尾崎朋子・早川京子・中嶋昭典
【授業の回数】	【時間数】 135時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】			
1. 福祉施設における法的な位置づけ及び職業倫理の重要性を理解し、福祉従業者としての役割を理解する 2. 障害のレベルに応じて求められる基本的な生活支援技術を確認し、適切な技術を活用したケアの実践ができる 3. 介護対象者としての利用者の生活上の課題を明確化する 4. ICFに基づいた介護過程の展開方法や介護実践の意義を理解し、計画立案に結びつける 5. 医療と介護、多職種との協働及び連携など、実践を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する			
【授業の概要】			
利用者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場に於いて個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実際、生活支援技術の確認、多職種協働や関連機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。また、利用者の特性を理解し、情報収集・アセスメント・計画立案までの介護過程の一連の流れを理解する。			
【授業計画】			
18日間の集中実習 時期： 2月～3月 障害者支援施設（身体障がい、知的障がい、医療型障害児・者入所・療養介護施設） 介護老人福祉施設、介護老人保健施設のいずれかで実習する。 実習終了後、実習ふり振り返りレポートを作成し、 その後実習体験報告会用の原稿として完成させる。			
【テキスト名・著者名・出版社名】			
最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】			
施設実習指導者の評価と担当指導教員の評価を総合して評価する。			

【授業科目名】 発達と老化の理解A		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 尾崎 朋子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 1. 人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得する。 2. 成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識を習得する。 3. ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病についての知識を習得する。			
【授業の概要】 人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を、実習体験と比較しながら学習する。			
【授業計画】 第1回：授業オリエンテーション 成長・発達の考え方 成長・発達とは 第2回：成長・発達の考え方 環境的要因の重要性 第3回：成長・発達の原則・法則 第4回：成長・発達に影響する要因 遺伝的要因 環境的要因 第5回：人間の発達段階と発達課題 発達理論 第6回：の発達段階と発達課題 発達段階と発達課題 第7回：身体的機能の成長と発達 第8回：心理的機能の発達 第9回：社会的機能の発達 第10回：老年期の定義 高齢者疑似体験 第11回：老化とは 高齢者議事体験 第12回：老化とは 第13回：老年期の発達課題 第14回：老年期をめぐる今日的課題 第15回：老化に伴う心とからだの変化概説 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 最新介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験50% 確認テスト4回30% 提出課題（演習課題の解答）			

【授業科目名】 認知症の理解A		【授業科目名】 講義・演習	【授業科目名】 宮田 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年前期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①認知症を取り巻く状況を説明できる。 ②認知症の原因となる主な病気の症状の特徴を説明できる。 ③認知症の人に特徴的な心理・行動を説明できる。			
【授業の概要】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。			
【授業計画】 第1回：認知症の定義と特徴 第2回：認知症ケアのこれまでとこれから 第3回：認知症高齢者の現状と今後 第4回：認知症の人の体験と介護が指すもの 第5回：認知症ケアの理念と視点について 第6回：脳の老化、脳の各部位とその働き 第7回：中核症状と周辺症状（記憶障害 見当識障害 失語・失行・失認 その他） 第8回：アルツハイマー型認知症、血管性認知症、その他 第9回：うつ病、せん妄、軽度認知障害（MCI） 第10回：若年性認知症の生活課題と支援のあり方 第11回：長谷川式認知症スケール、MMSE、FAST、その他 第12回：薬物療法と非薬物療法（回想法等） 第13回：認知症の予防（危険因子と予防策） 第14回：認知症が及ぼす心理的影響、認知症の人の特徴的な行動障害 第15回：ロールプレイングを用いた心理的理解 前期のまとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第3版・介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）、提出課題・小テスト・学習状況（40%）を総合評価する。			

【授業科目名】 認知症の理解 B		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 宮田 京子
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①認知機能の変化が生活にどのように影響するか説明できる。 ②地域におけるサポート体制とチームアプローチについて説明できる。 ③家族の介護負担を知り、家族への支援方法を考える事ができる。			
【授業の概要】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。			
【授業計画】 第 1回：認知症に関する行政の方針と施策 第 2回：認知症の変化が生活に及ぼす影響 第 3回：効果的な環境の働きかけ 第 4回：物理的社会的環境の効果 第 5回：施設での利用者の環境 第 6回：生活を構成する要素と生活課題 第 7回：認知症の進行に応じた介護 第 8回：かかわる際の基本的な姿勢 第 9回：人間の尊厳を取り戻すための援助 第10回：地域におけるサポート体制とチームアプローチ 第11回：家族の悩みと支援方法 第12回：家族のレスパイトの方法 第13回：認知症の人の生活を支えるケア 第14回：認知症の人の行動の背景を読み解く 第15回：本人の望む介護計画 後期のまとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第3版・介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（60%）、提出課題・小テスト等（40%）を総合評価する。			

【授業科目名】 障害の理解A		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 山本 貴啓
【授業の回数】 15回	【時間数】 30時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 「障害」を「生活機能」と捉えることの意義を説明できる 対象者に関わる他職種の特徴を説明できる リハビリテーションの意義を説明できる 要介護状態と関連のある運動器疾患について説明できる。			
【授業の概要】 ・生活機能が低下した人に対する支援を展開するためには、障害を正しく理解する必要がある。 ・介護福祉士として対象者ならびに他職種と向き合うときには、裏づけされた知識、技術が求められる。 ・根拠のある技術と、正しい知識で介護過程が展開できるための基礎科目である。 ・前半はICFを中心に、後半は疾患各論として運動器疾患の理解を深める。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・障害の理解を学ぶ意義 第2回：障害とは 第3回：障害のとらえ方1 国際障害分類 ADL 第4回：障害のとらえ方2 国際生活機能分類 第5回：他職種の理解1 第6回：他職種の理解2 第7回：リハビリテーションとは 第8回：廃用症候群の概要 第9回：廃用症候群に対するアプローチ 第10回：運動器の障害1 第11回：運動器の障害2 第12回：運動器の障害3 第13回：介護予防の取り組み 第14回：要介護者を取り巻く環境 第15回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 障害の理解・介護福祉士養成講座編集委員会・中央法規出版 発達と老化の理解／認知症の理解／障害の理解／こころとからだのしくみ」・日本介護福祉士養成施設協会編・法律文化社			
【参考書・参考資料等】			
【学生に対する評価】 定期試験（70％）講義内で課すレポート（30％）			

【授業科目名】 こころとからだのしくみⅠ		【授業の種類】 講義・演習	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 30回	【時間数】 60時間	【開講学年・時期】 1年通年	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①健康に生活することの意味を学び、実習における利用者理解を深める。 ②体の構造と働きを理解し、個別援助に必要な知識を習得する。 ③こころとからだ相互に影響しあうことを学び、実践的なケアの根拠とすることができる。			
【授業の概要】 こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。特にこころとからだ相互に影響しあい、意欲や行動などに影響を及ぼすことを学習する。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 「健康」とは何か～健康の定義等～ 第2回：「健康」とは何か～人はなぜ病気になるのか～ 第3回：こころのしくみを理解する～人間の欲求とは、自己実現と尊厳～ 第4回：こころのしくみを理解する～大脳のしくみと認知、学習、記憶、思考のしくみ～ 第5回：こころのしくみを理解する～感情、意欲・動機づけ、適応のしくみ～ 第6回：振り返り 第7回：からだのしくみ～身体各部の名称～ 第8回：中枢神経と抹消神経 第9回：中枢神経と抹消神経 第10回：骨 第11回：骨・関節の動き 第12回：筋肉の動き 第13回：呼吸器 第14回：前期のまとめ 第15回：前期のまとめ 第16回：前期の振り返り 第17回：消化器系（消化器全体 口） 第18回：消化器系（食道と胃） 第19回：消化器系（小腸） 第20回：消化器系（大腸） 第21回：消化器系（肝臓） 第22回：消化器系（その他の臓器） 第23回：循環器系（心臓の構造）			

第24回：循環器系（心臓のはたらき）

第25回：循環器系（血液の流れ）

第26回：感覚器系（目）

第27回：感覚器系（耳）

第28回：泌尿器系

第29回：生殖器・内分泌

第30回：後期のまとめ

定期試験

【テキスト名・著者名・出版社名】

最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ、介護福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版株式会社

看護学生のための解剖生理 よくわかるBOOK、江連和久他、メヂカルフレンド社

新訂目で見るとからだのメカニズム、塚章、医学書院

【参考書・参考資料等】

随時配布

【学生に対する評価】

定期試験（60%）、小テスト（6回）及びデッサン等を入れて（40%）で評価

【授業科目名】 医療的ケアA		【授業の種類】 講義	【担当教員名】 早川 京子
【授業の回数】 17回	【時間数】 25時間	【開講学年・時期】 1年後期	【必修・選択】 必修
【授業の到達目標及びテーマ】・【目標】 ①個人の尊厳を守り、自己決定の権利を尊重したケアの実践を理解する。 ②保健医療に関する制度を理解する。 ③安全管理・感染予防についての知識を習得する。 ④喀痰吸引や経管栄養の基礎知識を理解する。			
【授業の概要】 医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について学ぶ。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 人間と社会 第2回：保健医療制度とチーム医療 第3回：安全な療養生活 第4回：清潔保持と感染予防 第5回：健康状態の把握① 第6回：健康状態の把握② 第7回：健康状態の把握③ 第8回：呼吸のしくみとはたらき 第9回：いつもと違う呼吸状態・たんの吸引とは 第10回：人工呼吸器と吸引 第11回：子どもの吸引について 第12回：吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応 第13回：呼吸器系の感染と予防 第14回：たんの吸引より生じる危険・事後の安全確認 第15回：急変・事故発生時の対応と事前対策 第16回：救急蘇生法 第17回：まとめ 定期試験			
【テキスト名・著者名・出版社名】 改訂介護職員等による喀痰吸引経管栄養研修テキスト、全国訪問看護事業協会、中央法規出版			
【参考書・参考資料等】 改訂きちんと感染管理、辻明良、全国社会福祉協議会 看護学生のためのバイタルサイン、藏谷範子他、メジカルフレンド社			
【学生に対する評価】 定期試験（50％）・小テスト（30％）・提出物及び学習状況（20％）で評価			